

＜調査結果報告＞ 三重とこわか国体・三重とこわか大会開催による 経済波及効果は約1,022億円

株式会社百五総合研究所は、2021年9月25日～10月5日（会期前実施競技は9月4日～9月20日）及び10月23日～10月25日を会期とする第76回国民体育大会「三重とこわか国体」と第21回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」の開催が三重県内にもたらす「経済波及効果」について推計を行った。

【推計結果の概要】

- 「三重とこわか国体・三重とこわか大会」（以下、両大会）開催による経済波及効果について、以下の①～③を対象に、「平成27年（2015年）三重県産業連関表」（三重県）を用いて、三重県内における経済波及効果を推計した。※①②の経費、③の算出根拠となる参加者数は三重県提供。
 - ①三重県と市町が2012年度から2021年度に両大会開催のため支出した「施設整備費」
 - ②三重県と市町が2012年度から2021年度に両大会開催のため支出した「事業費（①以外）」
 - ③参加者による「消費支出」
- 【①+②】三重県と市町が、両大会開催のために、これまでの10年間に行ってきた、体育館などの施設の整備や両大会の準備・運営、競技力向上（競技団体等の強化）などにかかる事業費支出（①+②）※1による経済波及効果（総合効果）は、合計で930億円と推計。
- 【③】両大会開催期間中、三重県内の開催地には、選手・監督、大会役員やボランティア、警備員、運営協力業者などの大会関係者、観覧者や報道員など多数の人が来訪する。その人たちが、その間に三重県内で支出する交通費や宿泊費、飲食費、土産費など（③）による経済波及効果（総合効果）は、92億円と推計。
- 両大会開催が三重県内にもたらす経済波及効果（総合効果）は、①②③の合計で約1,022億円と推計。これは、県内で支出された（される）金額（直接効果）の約1.441倍。
- 経済波及効果（総合効果）約1,022億円のうち、直接効果は約709億円、1次波及効果は約172億円、2次波及効果は約141億円。
- 産業別にみると、「建設」、「対事業所サービス」、「運輸・郵便」、「宿泊業」、「飲食サービス」、「その他の対個人サービス」、「商業」など、幅広い産業への効果が期待される。

■両大会開催による経済波及効果（生産誘発額）

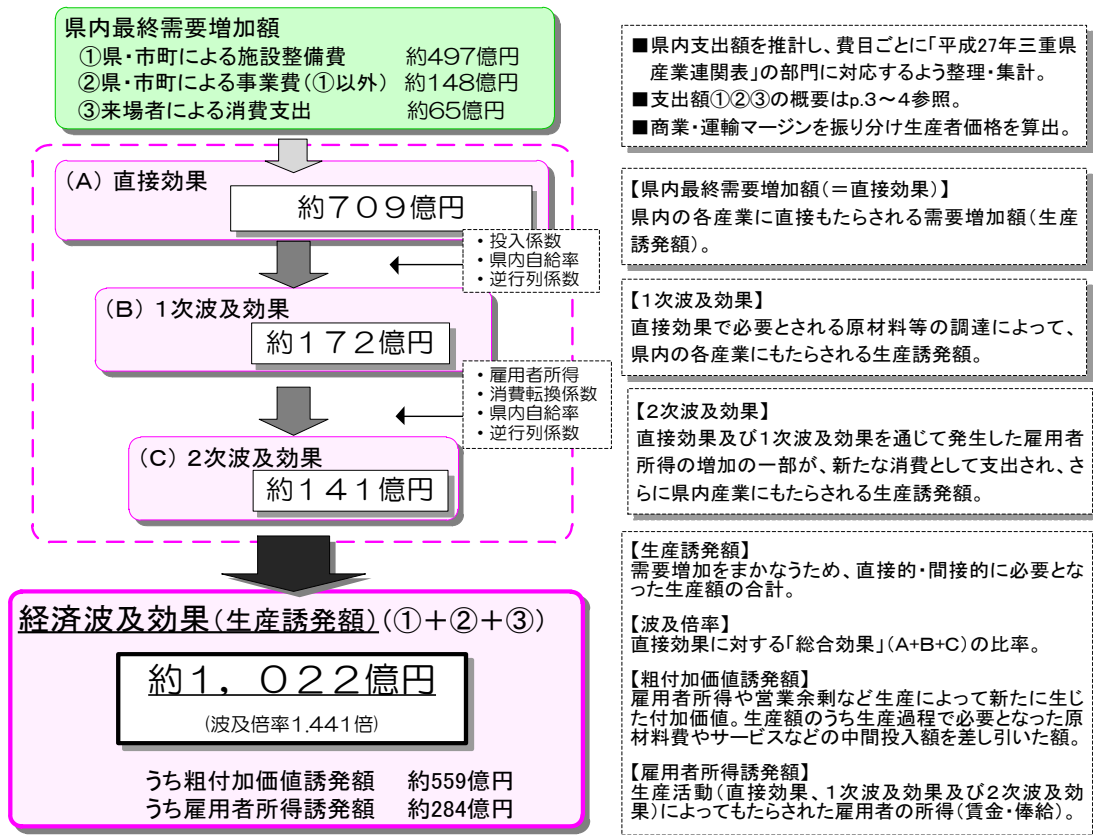
	県・市町による事業費支出※1			参加者の消費支出 (億円)	合計 (億円)
	(億円)	施設整備費	事業費 ※2		
直接効果※3	645	497	148	65	709
1次波及効果	156	126	30	16	172
2次波及効果	130	101	28	11	141
総合効果	930	724	206	92	1,022
波及倍率※4 (倍)	1.443	1.458	1.393	1.427	1.441

- ※1 2012年度から2021年度の県内支出。
- ※2 開催準備・運営費や競技力向上費。
- ※3 県内最終需要増加額と同額。
- ※4 波及倍率＝総合効果／直接効果

【推計結果】

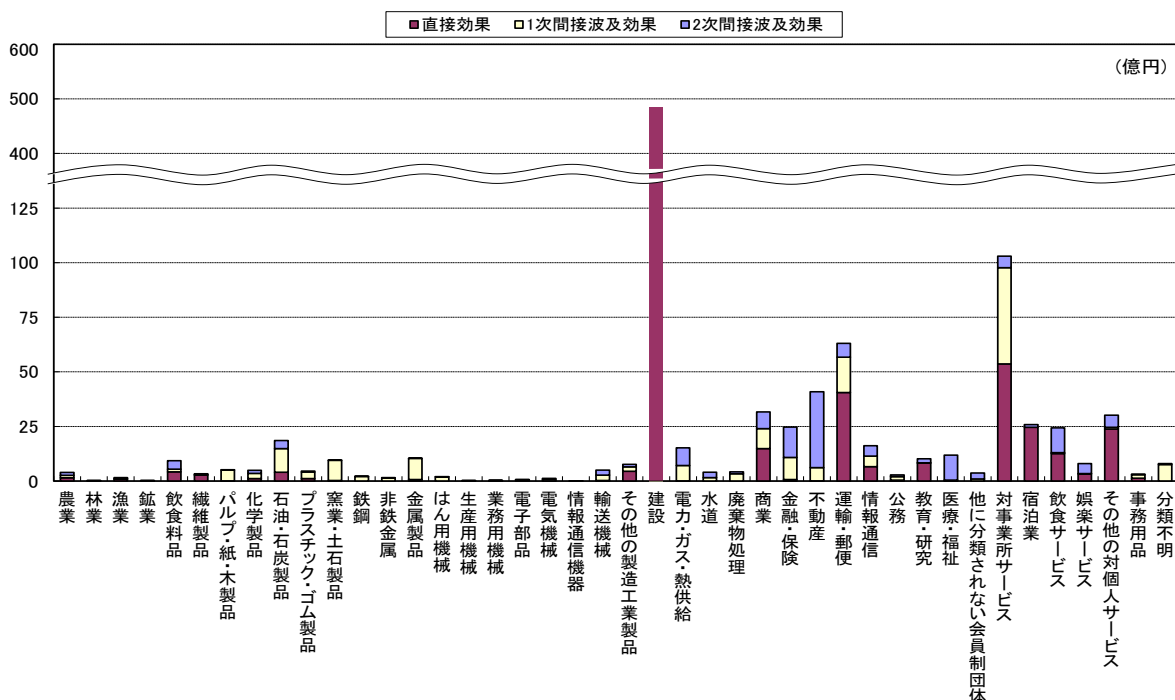
1. 経済波及効果の推計フロー

県内最終需要増加額を推計の上、「平成27年（2015年）三重県産業連関表」を用いて経済波及効果を推計した。



2. 経済波及効果（産業別）

三重県内への経済波及効果（生産誘発額）について、産業部門（42部門）別にみると、最終需要増加額の大きい「建設」が突出して高いが、「対事業所サービス」、「運輸・郵便」、「宿泊業」、「飲食サービス」、「その他の対個人サービス」、「商業」など、幅広い産業への効果が期待される。



3. 県内最終需要増加額の推計

(1) 三重県と市町による「施設整備費」

三重県と市町は、両大会の開催を主目的あるいは契機として四日市市総合体育館（四日市市）、津市産業スポーツセンター（津市）、三重交通 G スポーツの杜 伊勢（伊勢市）など多数の競技場等の施設整備を行ってきた。

三重県と市町が、両大会開催のために 2012 年度から 2021 年度の 10 年間で支出した「施設整備費」496.5 億円を県内最終需要増加額として、経済波及効果を推計した。

【施設整備費】

	(億円)
県	115.4
市町	381.2
合計	496.5

※県提供。市町の支出額は、市町から県への報告に基づく。

※県の支出額には、県から市町に交付する第 76 回国民体育大会市町競技施設整備費補助金を含めて計上しており、市町の支出額には、上記補助金額を除いて計上している。

(2) 三重県と市町による「事業費（※施設整備費除く）」

三重県と市町は、両大会の開催にあたり、準備・運営にかかる経費や、三重とこわか国体に向けた三重県選手の強化活動費等競技力向上対策費を支出している。

三重県と市町が、2012 年度から 2021 年度の 10 年間で支出した「事業費（※施設整備費除く）」のうち、三重県内への支出分 148.0 億円を県内最終需要増加額として、経済波及効果を推計した。

【事業費（※施設整備費除く）】

		(億円)
県	開催経費	77.9
	競技力向上対策経費	26.6
市町	開催経費	43.6
	合計	148.0

※県提供。市町の支出額は、市町から県への報告に基づく。

※県の支出額には、県から市町に交付する三重とこわか国体会場地市町運営交付金及び三重とこわか国体競技別リハーサル大会運営費補助金を含めて計上しており、市町の支出額には、上記補助金額を除いて計上している。

(3) 参加者による「消費支出」

両大会の開催期間中、開催地域には、選手・監督、大会役員やボランティア、警備員、運営協力業者などの大会関係者、一般観覧者や招待者、報道員など多数の人が来訪し、そこで様々な消費活動を行う。

ここでは、両大会の参加者の三重県内での消費支出による経済波及効果を推計した。消費支出額は、「参加者数」に「参加者 1 人当たり消費支出単価」を乗じて推計している。

(i) 参加者数

三重県は、両大会の開・閉会式及び競技会等、開催期間中における参加者延べ人数を下表の通り 461,000 人（※2021 年 6 月 30 日時点）と想定している。

想定にあたっては、コロナ禍におけるイベント開催基準（収容率制限）、先催県における平均参加人数、関係者等への事前調査などを考慮している。また、推計時点において中止や無観客が決定している競技についてはそれも考慮（除外）している。

【参加者延べ人数及び宿泊者延べ人数】

	参加者延べ人数 (人)		宿泊者 延べ人数
	県内	県外	
選手・監督	102,000	5,000	135,000
大会関係者	126,000	113,000	13,000
観覧者	233,000	209,000	24,000
合計	461,000	327,000	172,000

※県提供。
※2021年6月30日
時点の想定。

(ii) 消費支出単価

開催期間中の「参加者1人当たりの消費支出単価」は、三重県「観光客実態調査報告書」の旅行平均利用総額および観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」の旅行単価を参考に、国体及び全国障害者スポーツ大会への参加であること、コロナ禍であること、消費地である三重県の特長などを考慮のうえ、仮定した。

【参加者1人当たり消費支出単価】

	日帰り客 (円/人)	宿泊客 (円/人泊)
交通費	3,256	6,139
宿泊費	0	10,671
土産費	2,093	3,543
飲食費	1,766	3,950
その他	205	190
合計	7,321	24,493

(iii) 最終需要額

参加者の消費支出額は、(1)「参加者延べ人数」に(2)「参加者1人当たり消費支出単価」を乗じて推計した。そのうち「土産費」と「その他」については、三重県内の産業特性を考慮して県内産比率を設定し、それに乗じた額を県内最終需要増加額としている。これら5費目の合計64.6億円を基に、経済波及効果を推計した。

【最終需要額】

	(億円)
交通費	21.2
宿泊費	18.4
土産費	12.0
飲食費	12.6
その他	0.5
合計	64.6

以上

<※推計結果についての主な留意事項>

- ・ 経済波及効果の推計には、「平成27年(2015年)三重県産業連関表」(42部門)を使用。
- ・ 経済波及効果の地理的範囲は三重県内全域。波及効果は、2次波及効果まで推計。
- ・ 単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。
産業連関分析モデルでは、以下の基本前提のもとに作成され、分析が行われていることに留意する。
- ・ 全ての生産は、最終需要を満たすために行われる。
- ・ 1つの生産物(商品)は、ただ1つの産業部門から供給され、短期的にはそれが変化しないものとする。
- ・ 生産を行う上での供給制約は、一切ないものと仮定する。
- ・ 生産波及は、途中段階で中断することなく、最後まで波及するものとする。需要の増加には、全て生産増で対応し、在庫取り崩し等による波及の中断はないものとする。
- ・ 需要量が2倍になれば原材料投入量も2倍になる(線形的な比例関係)と仮定し、規模の経済性は考慮されない。
- ・ 時間の概念はなく、経済波及効果の発生時期、達成される時期を明らかにすることはできない。
- ・ 2次波及効果の計算は、雇用者所得のみを対象としている。